経済思想史		講義	教授　田中　秀臣	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの専門選択科目		科目ナンバリング	23020206

１．授業のねらい・概要

経済思想史とは，経済学に貢献してきた歴史的な経済学者の考え方を，その特徴自体の発展，またその発言された当時の社会状況，そして現代からみたときのそれらの過去の経済学者たちの考えからのもつ意義などを考察する学問のことである。経済に関する理論・歴史を中心に幅広い教養を得ることのできる総合的な科目である。特にすべての学年が選択可能であることから，経済学の基礎的な理解がまだなくとも興味を持って受講できるように工夫する。講義では，特にアダム・スミス（経済学の父といわれる）以降から，現代の経済学者たちまでの経済思想を全 15 回にわたって丁寧に，ただし直観的に理解できるように面白くすすめていきたい。

２．授業の進め方

特に教科書は指定しない。Power point などを使用して，時事的テーマもからめてわかりやすく説明していく。初心者でも予備知識なく経済思想史の理解が深まるように講義は進行していくだろう。

３．授業計画

１．経済思想の起源（アリストテレスと中世）	９．ジェボンズとマーシャル
２．アダム・スミス	10．ピグーと厚生経済学
３．マルサスとリカード	11．ケインズ
４．ジェイムズ・ミルと古典派の植民地論	12．日本の厚生経済学の歴史―福田徳三から現代―
５．J.S.ミル	13．新古典派総合，フリードマンから現代へ
６．ユートピア社会主義	14．ガルブレイスとミュルダール
７．カール・マルクスの経済学	15．石橋湛山とリフレ
８．歴史学派経済学とメンガ―、限界革命	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業の前に指定された参考資料を各自よく学んでおくこと。目安として１時間程度の学習時間が必要。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後、レポートについては提出後に、標準的なレポートの書き方、求められたポイント、高得点のためのコツなどを解説する。

６．授業における学修の到達目標

経済思想史の主要項目について，一通りの理解と習得ができていること。現代の問題との関連が理解できること。

７．成績評価の方法･基準

授業中の取り組む姿勢を重視する（50%）。期末には試験またはレポートを提出させて総合的に評価（50%）していく。

８．テキスト･参考文献

特に指定はないが，参考文献として以下の書籍をあげておく。

Agnar Sandmo（著）Economics Evolving: A History of Economic Thought（Princeton University press）

ナイアル・キシニティー『若い読者のための経済学史』（すばる舎）

田中秀臣・田村秀男・麻木久仁子（著）『日本建替論』（藤原書店）の田中論文。

田中秀臣『経済政策を歴史に学ぶ』（ソフトバンククリエィティブ新書）

９．受講上の留意事項

特にないが、熱意をもって経済思想史の講義を理解しようとする姿勢が重要である。現実の経済の話題に常に注意を払い、受講した経済思想史の問題とどう関連があるのか思索をめぐらしてほしい。疑問や議論があれば積極的に質問してほしい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。